

# 焼鈍炉増設

## 金型補修事業を強化

東南精機

などの溶接前後の残留応力を削減する装置で、金型に歪み発生させないようにする設備。

溶接するだけでは溶接部と非溶接部分との温度差が大きくなり、ワ

環境負荷軽減への目的などを背景として、金型を補修するニーズは、

頭のバブル崩壊以降、人材育成や設備投資が進まなかつたために、

減少の一途を辿っており、金型補修市場は、需要過多の状況が続いている。加えて、現状では、溶接加工業者と

## 納期を6分の1に短縮

## 大物部品で最速納期1ヶ月目指す

愛知県安城市の大物金型・大物部品加工業者の東南精機は、07年より始めていた金型補修事業の拡大などを目的として、7月までに熱処理用焼鈍炉を増設する。

この数年、特に500トンを超える大物部品の分業で金型補修を行って、焼鈍炉のよ

切削加工業者とが工程を分業で金型補修を行って、焼鈍炉のよ

半年とも言われる金型部品金型補修の納期の大幅な短縮を図ってきた。

肉盛りや割れた金型の接続など金型補修において、SKT4など金

後の耐久性が低下する事が問題視されている。

溶接加工業者は、日本

風車内部のヨーギアなど、新たに、修繕品目の拡大も進める狙い。

いる昨今では、単純に

焼鈍炉は、大物金型

増設により、更なる納

期短縮を進める。360日昼夜勤体制を敷く